



第237号 紙面案内

第2面…工場見学記 第52回全国研究大会参加記

第4面～第5面…産学交流シンポジウム報告記・参加記

## 倫理教育の重要性を強調しよう！

会長 舩富順久

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年後半より景気が上昇傾向に転じ経済活動も活発化して参りました。一方モラル・ハザードに関する不祥事も相変わらず高い件数を示しております。その内容は、最も重要視してきた人間の安全・安心に係わる事件の多発であります。

再三にわたる欠陥自動車リコール隠し事件や昨年末に発覚した耐震強度偽装事件などは、利益最優先の経営戦略の結集であると判断せざるをえません。

昨年まではCSR (Corporate Social Responsibility) やSRI (Socially Responsible Investment) を巡る議論が活発でありました。しかし、今年は加えてCR (Corporate Responsibility=責任ある企業経営) の気運が高まると考えられます。欧米のCSR最新事情によると「CSRとガバナンスの統合によってCR (責任ある企業経営) と言うべき新たな潮流ができ、さらに非財務情報の開示規制がCSR報告を大きく変貌させつつあります。グローバルな責任意識において日本企業は遅れをとる」(梅野みずえ著 環境・CSR2006 12月7日 P.54) といわれています。

同稿では経営活動がグローバル化している今日、世界の動きを把握しながら国内外で通用する責任ある日本企業の経営展開が必要になってきていると主張しています (P.56)。

課題はその方法を具体的に提示する必要があります。すなわち実学一体の考え方に意拠した質の高い倫理教育がCR行動には不可欠と考えます。企業もまた大学も倫理教育の実施プログラムを開示しつつありますが、まだ効果が表れていないように思われます。今年こそ倫理教育を実のあるものにする必要があると考えます。

## 工場見学記

大野和巳（道都大学）

平成17年10月28日（金）、トヨタ自動車株式会社のご協力により、元町工場、トヨタ会館における施設見学・懇談会が行われた。世界から注目を集めている「トヨタ生産方式（TPS）」の思想と実践の一端に実際に触れることのできた貴重な機会となった。

元町工場は1959年にアジア初の本格的自動車工場として建設され、以来、トヨタを代表する高級車「クラウン」を生産してきた工場である。「よい品よい考」の標語のもと、柔軟なライン設定により人と機械が協調的に作業する組立行程とロボットによる完全自動化の溶接工程を中心に、「ニンベンのある自動化」と「ジャストインタイム」からなるTPSの現場を見学した。

続いてトヨタ会館では館内展示の自由見学と懇談会が行われた。改善につながる社員の創意工夫を活かす提案制度、目標管理制度、TQMなどの実態をはじめ、「モノづくりはヒトづくりから」（豊田英二最高顧問）という理念により品質と効率を実現し、グローバルに躍進を続けるトヨタの組織能力の源泉に迫ろうという鋭い質疑応答が活発に交わされた。

最後に鉄富会長より本学会の理念である「実・学一体」の実践となる産学交流の重要性とトヨタにたいする感謝の辞が述べられ閉会となった。今後もより多くの会員諸氏が工場施設見学に参加することを期待したい。

## 第52回全国研究大会参加記

佐々木秀徳（明治学院大学大学院）

第52回全国研究大会は、風光明媚な愛知県岡崎市の愛知産業大学にて開催された。本大会での統一論題は「経営教育・誰が誰に何をどのように教えるか」であり、増田茂樹先生（愛知産業大学）をはじめとする4名の先生方により含蓄ある報告がなされた。引き続き行われたシンポジウムでは、辻村宏和先生（中部大学）、井之川義明先生（株式会社マルチメックス）両先生が討論に加わり白熱した議論が展開されたが、議論が熱気を帯びてくるのと同時に時間が来てしまったのは誠に残念であった。

自由論題の諸報告は知的好奇心を刺激するものばかりであったが、私自身は報告者としても参加させて頂いた。私の報告は、本学会の趣旨からすればやや異色な学説研究であったにも関わらず、多くの先生方に聴講して頂き、また貴重なコメントを頂くことができた。

韓国経営教育学会副会長の梁在英先生による「韓国における経営教育」の報告は、わが国と韓国の経営教育、そしてその前段階となるであろう大学教育の実態の共通項ならびに差異点等、多くの示唆を含むものであった。一方で、木村俊一先生（トヨタ自動車グローバル人事部人材開発室長）による特別講演からは、トヨタでの人材の採用方針を学ぶことができ、後日、就職活動を控えている学部生に対してヒントとして提示することができた。

以上を総括すれば、本大会は出席者として、また報告者として非常に実りあるものとなった。

## 中部部会報告

上嶋正博（栢山女学園大学）

平成17年11月12日（土）13時30分より、中京大学名古屋キャンパス・センタービルにおいて、今年度第1回の中部部会が開催され20名の方が参加された。今回は報告と講演、2題の構成である。

まず、報告については、中部学院大学短期大学部の河野篤先生が「高齢者福祉施設の経営教育」のテーマで報告をされた。高齢者福祉事業が措置制度から契約制度へと変容するなかで、経営教育に対する関心は高まるものの、その実践はサービスの質の表現に困難さが伴うことなどもあり、必ずしも容易ではないこと。そして、そのような状況のなかで、試行的な取り組みとして、ISO9001の認証取得の経営教育的な機能について紹介がなされた。中部大学の辻村宏和先生のコメントの後、フロアーからも活発に質問が出され議論が展開された。

続く講演については、愛知産業大学の西郷幸盛先生が「朽ちつつある日本経済－戦後60年の栄光と終焉－」と題され、中京大学の櫻井克彦先生の司会で進められた。西郷先生は、第二次世界大戦後から現在に至る日本経済の在り様について、政治・家族（社会）・文化（価値観）を手懸りに、マクロな視点からの整理・分析枠組を呈示された。そして、勤勉・儉約・忍耐という価値観が混乱し、アノミー状況を呈している現状に憂慮と警鐘を鳴らされた。

部会終了後、同センタービル2階のレストラン「ボヌール」において、懇親会が開催された。会員相互の懇親が深められるとともに、報告者・講演者を囲んでの意見交換の場としても活用されていたことを付記させていただく。

## 中部部会開催案内

下記の要領にて、中部部会を開催いたします。会員の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

日 時：平成18年 3月 4日（土）13：30～

会 場：愛知産業大学名古屋サテライト（金山総合駅南口より徒歩2分）

### 第一報告

報告者：加藤 浩康氏（ビジネス研究所）

コメンテータ：水野 伸一郎氏（愛知産業大学短期大学）

テーマ：「企業統治の実践－事例を基に危機への対応を考える－（仮）」

### 第二報告

報告者：堀田 友三郎氏（愛知産業大学）

コメンテータ：上嶋 正博氏（栢山学園大学）

テーマ：「コミュニティビジネスが起業家育成に果たす役割（仮）」

なお、終了後に懇親会を予定しております。

**第8回産学交流シンポジウム報告記**

産学交流委員会委員 井之川義明

日 時：平成17年11月19日(土) 13:00~18:30  
場 所：新宿センタービル3階 株式会社エレガンス会議室  
大テーマ：「変革・教育・人材」  
論 題：[その2] ~プロ化する経営者の条件~  
参 加 者：シンポジウム：30名 名刺交換会・懇親会：30名

開会挨拶で舩富会長は、産学交流シンポジウムは日本経営教育学会創立の理念「実・学一体」を具現するための語り合い学習する重要な場であり、今回は大テーマ「変革・教育・人材」の3回シリーズの二回目であり、テーマに相応しい両先生をお迎えでき、大変に喜んでいましたと挨拶された。

今回は[その2]として「プロ化する経営者の条件-経営戦力・ニューウェーブ」のサブテーマの下、学会からは中京大学の村山元英教授に国際経営学・比較経営論の立場からのご講演、又、実業界からはエレガンスという生活者に支持され続けている自然化粧品・健康食品事業会社を創業された棚沢青路社長に経営者の立場に女性の観点も付加してご講演を頂きました。村山先生からは、今大きな利益を上げているトヨタの経営は「地縁・血縁・家の経営(土着の経営)とアメリカ的経営との融合」及びバランスを上手にとった経営、グローバルとローカルの融合、即ちグローバルな経営とのお話を頂いた。棚沢先生からは、創業以来のご苦労話、その中で現役経営者としての姿勢と行動の仕方、更に女性の有利な点について大変に示唆にとんだお話を頂いた。その後の意見交換会後の質問では更に突っ込んだ質問が出て、ライブだから聞ける生々しい事例の話も出て、参加者は大いに満足された様子でした。

名刺交換会・懇親会で挨拶された増田先生からは、東京での産学交流シンポジウムは初参加だが、本日の会は実学一体の学会の目的を具現化している会だったとのコメントまで頂きました。棚沢社長も参加され更に質問のある方も話が聞け、大いに盛り上がりました。当日は、土曜日という設定の上、シーズンのに大学の諸行事が多い中、学会の先生方も多数参加頂き、それぞれにコーディネーター役もお引き受け頂き、又院生の方による裏方の支援もあり、成功裏に終わられたことを委員長になり代わりここに御礼申し上げます。

後日談ですが、名刺交換会・懇親会には欠席の村山先生から時間切れで席上回答できなかった私の質問について後日、電話で詳しい回答を頂きましたので、併せてご報告します。



村山元英教授



棚沢青路氏

**第8回産学交流シンポジウム参加記**

文載皓（富士常葉大学）

平成17年11月19日に東京の新宿センタービル3階にある株式会社エレガンス会議室で第8回産学交流シンポジウムが行われた。シンポジウム、討論会、名刺交換・懇親会という内容で行われた今回のシンポジウムでは普段より多くの参加者があったことに加え、グループごとに分かれて進められた質疑応答の時間にも参加者の熱い議論が行われたのが確認できた。

シンポジウムの時間では中京大学教授の村山元英氏が「戦略と哲学 経営者開発論」というテーマと、株式会社エレガンスの代表取締役社長を勤めている棚沢青路氏が「志の実現に向けて」というテーマで講演を行った。

経営者開発論について語った村山元英氏はその事例としてトヨタ自動車を取り上げた。具体的な内容はトヨタファミリーの系図の紹介、トヨタファミリーの旧世代から新世代への移行期の特徴、血縁と学縁で結ばれているトヨタファミリーが古い伝統と西欧のマネジメント・スタイルを連携する二重の構造を有することなどであった。特に、村山氏は、トヨタ自動車が経営者教育に成功した理由について、「①ファミリー文化を親とともに学び、生きること、②ファミリー内での強い結束、③日本の名門大学への入学、④選ばれた良き友との交際と見合い結婚、⑤経営者能力を向上するためのメイン・プレイヤーの機会提供」などであった。

次に、棚沢氏は、自分自身が経営者としての道を歩むようになった経緯、経営者として歩む時の試練と苦難、そして自社の後継者教育をめぐる生じた様々な問題点などについて語った。特に、棚沢氏は女性経営者の成功者の条件として「①不平・不満を言わないこと、②直ちに行動すること、③将来の目標があること」を取り上げるなどの興味深いコメントもあった。

休憩の後、二人の講演に対する意見や質問のために設けられた討論会では、シンポジウムへの参加者を五つの小グループに分けてさらなる意見交換が行われた。



**平成17年度特定研究プロジェクト一覧**

総務委員長 松本芳男

平成17年度の特定研究プロジェクトは次の4件に決定しました。

**プロジェクト名：「2010年を志向する経営戦略」**

研究代表者：安田賢憲（東京富士大学）

研究メンバー：安田賢憲（東京富士大学）、芦澤成光（玉川大学）、遠藤健哉（成城大学）、文載皓（富士常葉大学）、文堂弘之（常磐大学）、佐久間信夫（創価大学）、小島大徳（神奈川大学）、小川達也（東京富士大学）

**プロジェクト名：「これからの経営と人材育成」**

研究代表者：阿部実（阿部経営問題研究所）

研究メンバー：阿部実（阿部経営問題研究所）、河野重栄（獨協大学）、逸見純昌（松蔭大学）、天谷正（日本文理大学）、内山利男（元・中京学院大学）、田中秀穂（東洋学園大学）、仲本英雄（ソフトハウス株式会社）、長坂寛（松蔭大学）、藤田紀美枝（日本橋学院大学）、藤芳誠一（明治大学）、箕豊（社団法人日本経営士会）、森下剛（森下経営革新研究所）、山本毅（システム構造研究所）

**プロジェクト名：「社会人大学院の現状と課題」**

研究代表者：齊藤毅憲（横浜市立大学）

研究メンバー：齊藤毅憲（横浜市立大学）、吉村宗隆（羽衣国際大学）、池田玲子（城西国際大学）、田中信裕（横浜市立大学大学院）、その他メンバー募集中

**プロジェクト名：「企業の発展段階にみる経営的・法的諸問題の経営法学的研究」**

研究代表者：松村洋平（青森中央学院大学）

研究メンバー：松村洋平（青森中央学院大学）、酒井甫（青森中央学院大学）、絹巻康司（拓殖大学）、山邑陽一（日本文理大学）、山本久義（九州産業大学）、永田均（琉球大学法科大学院）、劉敬文（青森中央学院大学）、新免圭介（青森中央学院大学）

**編集後記**

新春号をお届けします。今年も会報の充実に邁進して参ります。会員の皆様の叱咤激励をお待ちしております。 加藤賢次郎・杉浦慶一

発行 **日本経営教育学会**

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4  
株式会社山城経営研究所（担当：寿）  
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988  
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp  
URL: http://www.j-keieikyoku.jp/